

# 第 5 章

## 複数校指導モデルの事例詳細

- 5.1 事例 A) ①実地型（複数校兼務）で複数校指導を行うA校…………… 63
- 5.2 事例 B) ②実地型（全日制・定時制兼務）で複数校指導を行うB校…… 65
- 5.3 事例 C) ②実地型（全日制・定時制兼務）で複数校指導を行うC校…… 67
- 5.4 事例 D) ①実地型（複数校兼務）と③遠隔型の併用で複数校指導を  
行うD校 …………… 69
- 5.5 事例 E) ③遠隔型（スタジオからの配信）で複数校指導を行うE校…… 76

# 第5章

## 複数校指導モデルの事例詳細

本章では、複数校指導を行う学校の取組事例を紹介する。

事例	型	事例の要点
A	①実地型 (複数校兼務)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報教育の質の向上が求められている状況を受け、教科「情報」に対する専門性・指導力の向上を目指して、教員自らが複数校指導を担当することを希望した。</li> <li>教育支援ツールを活用することで学校間の教材・情報連携を効率化している。</li> <li>生徒は高い指導力のある教員の授業を受けることができ、情報への興味・関心が向上している。</li> </ul>
B	②実地型 (全日制・定時制兼務)	<ul style="list-style-type: none"> <li>より質の高い教育の提供を目指し、複数校指導により全日制課程・定時制課程双方でのチーム・ティーチングを実現している。</li> <li>複数校指導担当教員は全日制課程・定時制課程の幅広い生徒への指導を通じて、自身の指導力の向上を実感している。</li> </ul>
C	②実地型 (全日制・定時制兼務)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科「情報」の免許保有教員が非常勤講師も含めて確保しにくい状況の中、複数校指導により教科「情報」の免許保有教員が定時制課程を兼務することで、定時制課程の授業の質を担保している。</li> <li>兼務日の複数校指導担当教員の始業時間を遅らせることで、勤務時間内で兼務校授業を実施している。</li> <li>複数校指導担当教員にとっても全日制課程・定時制課程の幅広い生徒への指導を実施する中で刺激を受けていることが、複数校指導の原動力となっている。</li> </ul>
D	①実地型(複数校兼務)と ③遠隔型の併用	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔授業と実地授業を交互に実施することで、授業の質を担保しながら実地授業に伴って発生する移動時間を軽減している。</li> <li>本務校・兼務校間の距離が近いこともあり、学級担任と複数校指導を両立している。</li> <li>複数校指導担当教員は他校の生徒への指導を通じて、指導力の向上を実感している。</li> </ul>
E	③遠隔型 (スタジオからの配信)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の専門性・高い指導力のある教員の授業を配信することで、教員が不足する地方の学校の生徒に対しても質の高い授業機会を提供している。</li> <li>複数校指導担当教員は、通信制高校へ配属し遠隔授業に専念できる体制とすることで、遠隔授業に伴って大きく増加する授業準備、教材研究の時間を確保している。</li> <li>複数校指導担当教員にとって、遠隔型での学びを最大化するための教材研究は難しい課題であり、試行錯誤しながら生徒の興味・関心の向上等の手応えを感じることでやりがいを実感している。</li> </ul>

表 41：本書で取り上げる事例一覧

# 1 事例A) ①実地型（複数校兼務）で複数校指導を行うA校

## (1) 複数校指導を担当する教員のプロフィール

項目		複数校指導担当教員の状況
持ち授業時数 (1週間あたり)	合計	12時間
	本務	6時間 (1年「社会と情報」)
		2時間 (1年「情報課題研究」)
兼務	4時間 (2年「社会と情報」)	
学級担任		副担任
部活動		吹奏楽部 (副顧問)、情報部 (副顧問)
主な校務		教務部、情報コース主任、ネットワーク管理者

表 42：事例A複数校指導を担当する教員のプロフィール

## (2) 兼務の勤務形態

		兼務日の兼務校での勤務時間	
		フルタイム	授業時のみ
兼務校の校務分掌としての業務有無	なし	A. フルタイム・校務なし	C. 授業時のみ・校務なし 複数校指導担当教員は、授業時間のみ兼務校で授業を実施、終了後は本務校に戻ってくる。また、兼務校で校務は担っていない。
	あり	B. フルタイム・校務あり	—

表 43：事例A複数校指導担当教員の勤務形態

## (3) 複数校指導担当教員に任命されたときに感じたことと現在感じていること

複数校指導担当教員自身がかねてより複数校指導を希望していた。その希望が通り複数校指導を実施することができることになったため、前向きに受け止めている。複数校指導を希望した理由は、学習指導要領が改訂される中で、教科「情報」に注力し、プログラミング教育を含めた教科「情報」の専門性・指導力の向上を図ることが必要と感じたため。

教科「情報」は、生徒にとっての必要性は高く、教科「情報」の授業をよりよいものとし、複数校指導を通してより多くの生徒に情報に対する関心を持ってもらえるようにしたいという思いを持っている。

#### (4) 時間割編成

- ◆ 兼務校の授業があるのは週2日。
- ◆ 兼務校の授業の日は、放課後も兼務校に滞在し、質問対応を実施する。

凡例	兼務校：	兼務校へ滞在	兼務校授業	移動（時間）		
	本務校：	本務校へ滞在	本務校授業			
		月	火	水	木	金
HR						
1						情報
2			情報			
3	情報	情報	1 学年部会	情報		
4	移動 (15分)		移動 (15分)			情報
昼休み						
5	情報					情報
6	情報	情報	情報			
7			情報			
放課後	質問対応	部活動指導	質問対応	部活動指導	部活動指導	

表 44：事例A複数校指導担当教員の時間割（例）

#### (5) 複数校指導実施上の課題・改善点

- ◆ 本務校・兼務校間におけるコンピュータ等ICT機器を含めた学習環境の違いにより、教材の共有が困難である。
- ◆ 兼務校のパソコンにプログラミング用のソフトをインストールしたいと考えたが、セキュリティ上できず、管理者権限のパスワードを確認・把握するまでに時間を要した。
- ◆ 本務校においては、複数校指導担当教員がネットワーク管理者であるが、兼務日においては度々発生するネットワークトラブルに対して迅速に対応できない場合がある。
- ◆ 兼務校生徒の実態について事前に情報を得ることが十分にできていなかった。

## 2 事例B) ②実地型（全日制・定時制兼務）で複数校指導を行うB校

### (1) 複数校指導を担当する教員のプロフィール

項目		複数校指導担当教員の状況
持ち授業時数 (1週間あたり)	合計	16時間 12時間 (65分授業) 4時間 (45分授業)
	本務	12時間 (65分授業) : チーム・ティーチング (主担当6時間、副担当6時間)
	兼務	4時間 (45分授業) : チーム・ティーチング (主担当2時間、副担当2時間)
学級担任		副担任
部活動		バレーボール部 (主顧問)
主な校務		学校内のネットワーク関連

表 45：事例B複数校指導を担当する教員のプロフィール

### (2) 兼務の勤務形態

勤務形態	概要
a. 勤務時間シフト型	
b. 時間講師型	兼務日か否かに関わらず出勤時間は変更せずに対応し、兼務校の授業は時間講師として指導する。

表 46：事例B複数校指導担当教員の勤務形態

※事例の自治体は勤務形態を「b.時間講師型」として、自治体の規則等により時間講師として指導している。なお、教育職員の勤務時間については、「公立の義務教育諸学校等の教育職員を正規の勤務時間を超えて勤務させる場合等の基準を定める政令」により定められていることから、導入に当たっては関係法令等を踏まえて各自治体の規則に応じて対応すること。

### (3) 複数校指導担当教員に任命されたときに感じたことと現在感じていること

過去にも時間講師の経験があったことから、複数校指導担当教員に任命されたことに対して大きな驚きはなく、生徒のためになるのでやりがいがあったと感じた。

全日制課程と定時制課程では生徒の実態も異なるので、生徒の実態に即した指導を実践していくことが重要となる。一方の課程の生徒に合わせて試行錯誤しながら実施した指導方法を、もう一方の生徒の指導に活用できる場合もある等、自身の指導力の向上を実感している。

今後学習指導要領が改訂されることもあり、引き続き複数校指導を担当し、教科「情報」の指導に力を入れていきたいと考えている。

#### (4) 時間割編成

- ◆ 兼務校の授業があるのは週3日。
- ◆ 複数校指導担当教員の退勤時間が遅くならないよう、兼務の授業を定時制の1時限目にできるだけだけ設定するようにし、調整が難しい場合には2時限目に設定。

凡例	兼務校：	兼務校へ滞在	兼務校授業	移動（時間）	
	本務校：	本務校へ滞在	本務校授業		

		月	火	水	木	金
全日制	HR					
	1				情報（主）	
	2	情報（主）			情報（主）	情報（副）
	3	情報（主）	情報（主）			
	4			情報（主）	情報（副）	情報（副）
	昼休み					
	5	情報（副）	情報（副）	情報（副）		
	6					
	7					
	放課後		部活動指導	部活動指導		部活動指導
定時制	1	情報（副）		情報（主）		情報（主）
	2	情報（副）				

表 47：事例B複数校指導担当教員の時間割（例）

#### (5) 複数校指導実施上の課題・改善点

- ◆ 複数校指導担当教員の勤務時間が長くなっている。
- ◆ 兼務校生徒の実態について事前に情報を得ることが十分にできていなかった。

### 3 事例C) ②実地型(全日制・定時制兼務)で複数校指導を行うC校

#### (1) 複数校指導を担当する教員のプロフィール

項目		複数校指導担当教員の状況
持ち授業時数 (1週間当たり)	合計	12時間
	本務	10時間
	兼務	2時間
学級担任		なし
部活動		空手道部(副顧問)
主な校務		教務主任 情報主任(システム運用管理者)

表 48：事例C複数校指導を担当する教員のプロフィール

#### (2) 兼務の勤務形態

勤務形態	概要
a. 勤務時間シフト型	全日制課程が本務、定時制課程が兼務であり、兼務日(定時制授業がある日)の出勤時間を遅らせて、勤務時間内で兼務校の授業を行うことができるようにする。
b. 時間講師型	

表 49：事例C複数校指導担当教員の勤務形態

※事例の自治体は勤務形態を「a.勤務時間シフト型」として、兼務日の出勤時間をずらしている。  
 なお、教育職員の勤務時間については、「公立の義務教育諸学校等の教育職員を正規の勤務時間を超えて勤務させる場合等の基準を定める政令」により定められていることから、導入に当たっては関係法令等を踏まえて各自治体の規則に応じて対応すること。

#### (3) 複数校指導担当教員に任命されたときに感じたことと現在感じていること

複数校指導担当教員に任命されたとき、複数校指導を担当することに対して驚きはしたが、前任での中高一貫校での兼務経験を活かして対応することができるという自信があった。

また管理職から、定時制の高校への教科「情報」の授業を行うことができるのは自分しかないということ、勤務時間シフト型の勤務形態により兼務日は出勤時間を遅らせること、周囲の支援体制を構築し繁忙期であっても早めに出勤する必要性を発生させないようにすること、の説明があったことも安心材料となり、複数校指導を担当することを前向きに捉えた。

全日制課程と定時制課程で生徒の実態が異なるので、基礎と応用両方を生徒の状況に応じて適切に教えていくための教材研究をすることになるため、必然的に指導力は向上していくと考える。

教材研究等の大変な面はあるが、より幅広い生徒と同時に関われることで、自身も刺激を受けていることが、複数校指導を行う原動力となっている。

#### (4) 時間割編成

- ◆ 兼務校の授業があるのは週1日。
- ◆ 兼務の定時制課程の授業はできるだけ1～2時限目に設定する方針。

凡例		兼務校： 兼務校へ滞在	兼務校授業	移動（時間）		
		本務校： 本務校へ滞在	本務校授業			
		月	火	水	木	金
全日制	HR					
	1					
	2	情報	情報		情報	情報
	3	情報				
	4		会議			
	昼休み					
	5	情報	情報		情報	情報
	6			情報		
	7					
	放課後					
定時制	1			情報		
	2			情報		

表 50：事例C複数校指導担当教員の時間割（例）

#### (5) 複数校指導実施上の課題・改善点

- ◆ システム運用管理主任を複数校指導担当教員とは他の教員にしているが、複数校指導担当教員が校内でシステム運用について最も精通しているため、負担がかかっている。
- ◆ 兼務日の勤務シフト（勤務開始時間を遅らせる）により、兼務日の業務に遅れが発生することがある。



4 事例D) ①実地型(複数校兼務)と③遠隔型の併用で複数校指導を行うD校

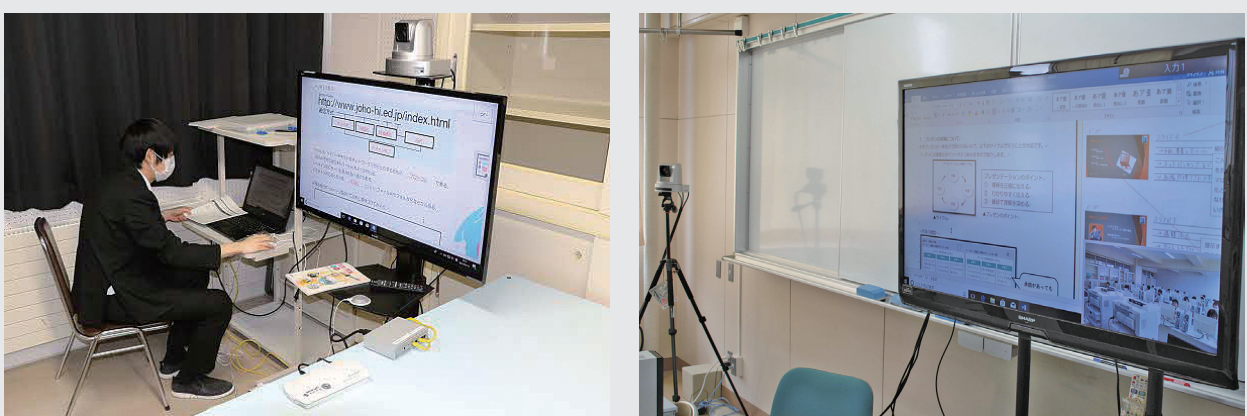


図 25：授業風景写真：配信側（左）、受信側（右）

(1) 複数校指導を担当する教員のプロフィール

項目		複数校指導担当教員の状況
持ち授業時数 (1週間あたり)	合計	14時間 (LHRと総合の時間を除く)
	本務	10時間 (教科「数学」)
		2時間 (1年「社会と情報」)
兼務	2時間 (1年「社会と情報」)	
学級担任		担任 (1年)
部活動		サッカー部 (主顧問)
主な校務		—

表 51：事例D複数校指導を担当する教員のプロフィール

(2) 兼務の勤務形態

本事例における複数校指導は、実地型の授業と遠隔型の授業を交互に実施している。

		兼務日の兼務校での勤務時間	
		フルタイム	授業時のみ
兼務校の校務分掌としての業務有無	なし	A. フルタイム・校務なし	C. 授業時のみ・校務なし 複数校指導担当教員は、授業時間のみ兼務校で授業を実施、終了後は本務校に戻ってくる。また、兼務校で校務は担っていない。
	あり	B. フルタイム・校務あり	—

表 52：事例D複数校指導担当教員の勤務形態

### (3) 複数校指導担当教員に任命されたときに感じたことと現在感じていること

複数校指導を実施することに対する戸惑いはあった。しかし実際に複数校指導を実施してみて、遠隔指導での効果的な授業展開・コミュニケーション方法の試行錯誤や、実態等が異なる様々な生徒への指導方法を考えることは、自身の大きな学びになっており、やりがいを感じている。

### (4) 時間割編成

- ◆ 兼務日は週1日。
- ◆ 兼務校の授業は2～3時限目に設定。

凡例	兼務校：	兼務校へ滞在	兼務校授業		
	本務校：	本務校へ滞在	本務校授業	移動（時間）	

	月	火	水	木	金
HR	HR	HR	HR	HR	HR
1	数学	移動※ (30分)	情報		
2	数学	情報		数学	情報
3		情報			
4		移動※ (30分)		数学	数学
昼休み					
5		数学	総合		
6	数学	数学	数学	数学	
7					LHR
放課後	部活動指導	部活動指導		部活動指導	部活動指導

※移動時間は実地型で授業を行うときのみ生じる。

表 53：事例D複数校指導担当教員の時間割（例）

複数校指導担当教員の本務校・兼務校間の移動時間（片道30分ほど）及び学級担任を受け持っていることを考慮した時間割編成である。複数校指導担当教員が本務校において、朝のHRを実施後兼務校に移動し授業を実施する。その後、昼休み頃に本務校に戻ってくることが可能となっている。このように、本務校不在時間を少なくすることで、学年担任業務への影響を小さくしている。

### (5) 教材準備時の留意事項

- ◆ それぞれの学校の生徒の実態等に適した教材を準備する。
  - ◆ 遠隔授業用教材においては、以下の工夫をしている。
    - 遠隔授業時、生徒に飽きさせないようにするため、言葉の意味の確認やWeb検索の実施、検索を踏まえた自分の考えの整理をしてもらうようなワークを導入する。
- （実践例：個人情報保護の単元（図 26参照））

- － ある高校生のSNS投稿例（写真・テキスト）を題材に個人情報特定をすることができそうな点がどこかを考えてもらう。
- － 社会問題となった芸能人のSNS等での誹謗中傷の事例を検索してもらい、考えをまとめてもらう。 等
- Excel等のアプリケーションの操作手順を複数校指導担当教員の画面を見せながら説明するものの、遠隔授業では指示がしにくく、生徒の作業の進捗状況を確認することができないため、具体的な操作手順を写真付きで示すことで生徒が各自で進めることができるようにしている。

（実践例：Excelでの表計算・グラフ作成（図 27：教材例）遠隔授業用に操作手順を詳細に示した教材参照）

- － グラフを作成する際の手順を、
  - 「①A1～C5セルを選択」「②「挿入 → 折れ線グラフ → マーカー付き折れ線グラフ」「③グラフタイトルの変更」と具体的に示すとともに、マーカー付き折れ線グラフを選択している画面写真を併記。 等

社会と情報【No.32】 個人情報の保護

今日の授業の流れ

- 1 著作権のルール (教科書 p54, p55)
- 2 個人情報の保護 (教科書 p56)

1 著作権のルール

～引用するときの注意事項～

- ① 引用しなければならない**必然性がある**こと
- ② 括弧を付けるなど、**引用した部分と区別する**こと
- ③ 全体をみて、**自分が書いた部分が主、引用部分が従**であること
- ④ 引用する著作物の著作者名、題名などを明示すること

～クリエイティブ・コモンズ～

クリエイティブ・コモンズとは、「著作者が使用許諾の条件を積極的に開示することにより、著作物を再利用されやすくする仕組み」のこと。

マーク	読み	意味
	表示 (Attribution)	その作品の利用に関して の著作者の表示を求める
	改変禁止 (No Derivative)	その作品の利用をそのま まの形でのみ認める
	非営利 (Noncommercial)	非営利目的に限ってその 作品の利用を認める
	継承 (Share Alike)	その作品に付けられたラ イセンスを継承すること

2 個人情報の保護

個人情報とは、「**あなた**」であることが**特定できてしまう情報** のことです。

～個人情報の定義～

- 1 **生存する個人に関する情報**  
ただし、死者に関する情報でも遺族等の生存している人に関わる場合は個人情報となる
2. **特定の個人を識別することができるもの**  
氏名、住所、電話番号、電子メールアドレス、年齢、性別、学歴、職歴、生年月日、血液型 など
3. **ほかの情報と容易に照合することができるもの**  
パスポート、運転免許証 など

～自分の個人情報の書き込み～

いきなりですが、次の画像をみて個人情報特定されるものがあります。それは、どこでしょうか？

SNSにアップした写真  
(例)  
近所のコンビニエンスストアの前で撮影した写真、  
今度観に行くミュージカルのチケットの  
写真

社会と情報【No.32】 個人情報の保護

これから、「SNS投稿の危険 高校生」で検索してみてください。すると下の図のようなサイトがあるので、読んでみてください。

WEB検索結果のスクリーンショット

～社会問題を考えよう～

① SNSの誹謗中傷に関する事件より

X月XX日に誹謗中傷した男性が書類送検されました。  
「XXX 〇〇」などで検索してみてください。

WEB検索結果のスクリーンショット

シオタグ・・・

**GPS機能によって、写真データの内部に緯度・経度の情報が記録されたもの**

これは、初めて聞く言葉かも知れませんが右の図のように携帯で撮った写真の場所がでますよね？これが、シオタグです。

普段は便利な機能ですが、Twitterなどで投稿するときの写真の画像にも記録されていることがあるので注意してください。



② 瞳に映った景色からアイドルの家を特定した事件より

アイドルが自宅前で撮った写真を投稿し、その瞳に映った写真から自宅を特定した。  
「XXX 〇〇」などで検索してみてください。

WEB検索結果のスクリーンショット

ちなみに、書き込みがやめられなくなるサイクルがありますので紹介しておきます。



単純なサイクルですが、たばこやお酒に依存する人と同じサイクルですね。一度依存してしまえば、分かっているにもかかわらず辞められないのが恐ろしいところですね...

①、②どちらの記事でも構いません。「この事件から感じたこと」や「～のような犯罪も危惧される」、「身近な～の行動が危ない」など感じたことを書いてみましょう。

Blank box for student response.

図 26：教材例) 遠隔授業用にワークを多く取り入れた教材

## 社会と情報【No.29】 エクセルでグラフの作成

今日の授業の流れ

- 1 グラフの作成について
- 2 演習

1 グラフの作成について

グラフを作成することは非常に大切なことです。まとめた情報を視覚的に表現することができます。操作としては難しくありませんので慣れていきましょう。

一権に例をやってから演習してもらいます。  
それでは配布資料を開き、「例（折れ線グラフ）」と書かれたシートを準備してください。

～操作手順～

- ① A17 から D21 までを選択する
- ② 「挿入 → 折れ線グラフ → マーカー付き折れ線グラフ」
- ③ グラフタイトルの変更  
フォントサイズ16、太字、塗りつぶし「青、アクセント1、白+基本色80%」

※ 軸の目盛りなどを変更したい場合は、変更したい値の上で

右クリックし、「軸の書式設定」を選択する

2 演習

シートを進めていきましょう。

～練習1（レーダー）～

- ① たんぱく質から炭水化物を選択し、グラフのレーダーを選択。
- ② グラフタイトルを「野菜の栄養成分」に変更し、サイズ16、太字に変更

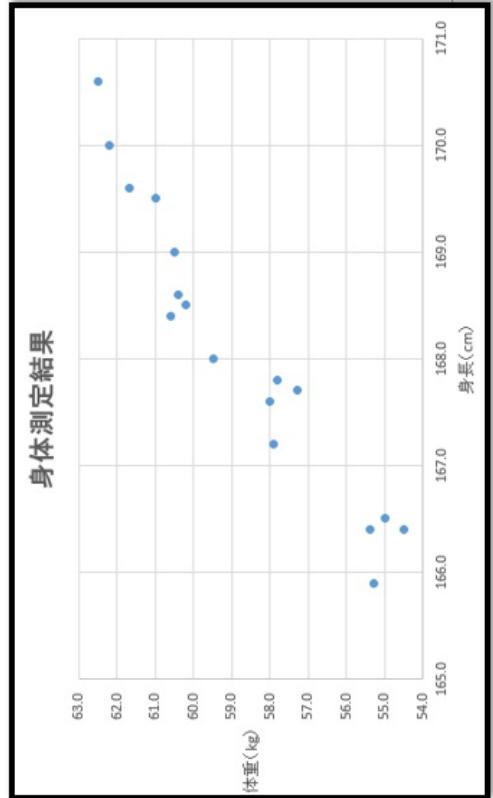
～練習2（散布図）～

- ① B4 から C20 までを選択
- ② 挿入 → 散布図
- ③ グラフタイトル変更（練習1と同じ）
- ④ +を押し、軸ラベルを追加
- ⑤ 縦軸を「体重 (kg)」  
横軸を「身長 (cm)」に変更
- ⑥ 縦軸は文字が縦書きになっているので、右クリック → 軸ラベルの書式設定 → 横書き



軸ラベルに  
チエック

<完成図>



<完成図>

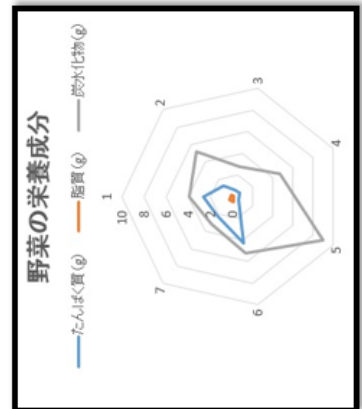


図 27：教材例) 遠隔授業用に操作手順を詳細に示した教材

## (6) 遠隔授業実施の概要

<遠隔授業の実施体制>

- ◆ 本務校視聴覚教室から配信している。(視聴覚教室に遠隔機器を常時セットすることで、授業前の準備・授業後の片付けが不要となり、時間削減とトラブル発生を抑制している。)
- ◆ 受信側の生徒数26人、遠隔授業補助教員1人(情報免許非保有。授業時に空いている教員が支援に入る)で授業を実施している。
  - 遠隔授業補助教員は、固定されているのではなく、遠隔授業実施時に兼務校側で授業等がない教員が当たる。
  - また、実地授業の際には、補助教員はつかない。

<実地授業と遠隔授業の使い分け>

- ◆ 遠隔授業が連続すると生徒も緊張感がなくなってしまう印象があったため、遠隔と実地を交互に実施している。
- ◆ 遠隔授業では知識を習得する時間とし、実地授業では身に付けた知識や技能を活用する時間として使い分けて指導している。

## (7) 遠隔授業実施上の課題と対応策

課題	対応策
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業時間になっても相手校とつながらないトラブルが発生する。</li><li>・ 遠隔授業の際には、兼務校で遠隔授業補助教員を配置する必要があり、他教員の負担が増える可能性がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ つながらなかった場合に備えて自習用教材を準備した。ただし、毎授業の内容に合わせて作り分けることは大変なので、年間を通して実施することができるワーク(Excel分析、Wordでの文書作成等)を作成した。</li><li>・ 遠隔授業補助教員教員を固定化せず、遠隔授業実施時に授業等がない教員が対応するようにしている。</li></ul>

表 54 : 事例D遠隔授業実施上の課題と対応策

## (8) 生徒評価における工夫点

兼務校の遠隔授業補助教員が実習の実施状況等の生徒の様子を伝え、提出物等を基に複数校指導担当教員が生徒評価をしている。

## (9) 授業改善に向けた取組み

兼務校の教務主任が遠隔授業補助教員として空いている時間帯に入ることもあり、授業の状況・生徒の反応を教務主任が把握し、複数校指導担当教員にフィードバックすることで、次回の授業の設計・進め方に活かしている。



### (10) 遠隔授業に対する生徒の声

遠隔授業を実施している生徒に対してアンケートを実施したところ、普通の授業と比べてよい・変わらないと回答した割合は回答者（22人）の80%を超えている。

生徒からは、「普通の授業と同じように進められていた。」「（遠隔授業であったが）分かりやすかった。」「遠隔授業補助教員がいることで、遠隔であっても分からないことを聞くことができた。」といった声が聞かれた。生徒も遠隔授業を概ね肯定的に捉えているとともに、遠隔授業補助教員（机間指導）の果たす役割が重要であることが分かる。

改善要望については、多数の生徒が「特になし」と回答している。唯一あがった改善要望の「友達が発表したときの声が届かない。」という点についても、授業の進行上の工夫で改善可能と考えられる。

#### ■質問「遠隔授業は普通の授業と比べてどうですか？」に対する生徒の回答



図 28：事例D遠隔授業アンケート結果「普通の授業と比べた遠隔授業」

#### ■生徒のコメント

	内容
よかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の声が聞きやすかった（多数の生徒が回答）</li> <li>分かりやすかった（多数の生徒が回答）</li> <li>先生が2人いる</li> <li>先生が近くにいないでも、分からないことを補助教員に聞くことができた</li> <li>普通の授業と同じように進められていた</li> </ul>
改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし（多数の生徒が回答）</li> <li>友達が発表したときの声が届かないことがあり、授業が止まることがあった</li> </ul>

表 55：事例D遠隔授業アンケート結果「よかった点・改善点」

### (11) 複数校指導実施上の課題・改善点

- ◆ 本務校不在時の生徒対応が迅速にできない。
- ◆ 兼務校生徒の実態について事前に情報を得ることが十分にできていなかった。
- ◆ 遠隔授業を行っている教員が周囲におらず、ノウハウを聞ける人がいないため、試行錯誤での取組みになっている。
- ◆ 本務校と兼務校では生徒の実態が異なるため、同じ教材・指導方法ではうまくいかなかった。

## 5 事例E) ③遠隔型（スタジオからの配信）で複数校指導を行うE校



図 29：授業風景写真：配信側（左）、受信側（右）

### (1) 複数校指導を担当する教員のプロフィール

項目		複数校指導担当教員の状況
持ち授業時数 (1週間あたり)	合計	6時間
	1校目	2時間（1年「社会と情報」）
	2校目	2時間（1年「社会と情報」）
	3校目	2時間（1年「社会と情報」）
学級担任		なし
部活動		なし
主な校務		通信制に所属しており、添削・面接指導が本務。

表 56：事例E複数校指導を担当する教員のプロフィール

### (2) 複数校指導担当教員に任命されたときに感じたことと現在感じていること

複数校指導を遠隔で行っていくためには、教材の準備、授業の進め方等試行錯誤が必要になるが、新しいことにも取り組みながら教科「情報」の遠隔授業の先駆者になっていくという気持ちを持っている。

現在は、実地での授業が一般的であり、今の教員にとって遠隔での授業は特別な指導形態かもしれないが、今後、生徒たちにとっては遠隔授業が当たり前の指導形態になっていくのではないかと感じている。それを先取りしていく教員として、遠隔授業に携わることができていることに対して大きなやりがいを感じている。



### (3) 時間割編成

- ◆ 複数校指導担当教員の本務校が通信制高校で中心となる添削指導は時間調整の自由度が高いため、兼務校の時間割に合わせて編成している。

凡例	兼務校：	配信シミュレーション	兼務校授業	移動（時間）	
	本務校：	本務校へ滞在	本務校指導		

	月	火	水	木	金
HR					
1	添削・面接指導	添削・面接指導	配信のシミュレーション	配信のシミュレーション	配信のシミュレーション
2	添削・面接指導	添削・面接指導	配信のシミュレーション	配信のシミュレーション	配信のシミュレーション
3	添削・面接指導	添削・面接指導	情報	情報	情報
4	添削・面接指導	添削・面接指導	情報	情報	情報
昼休み					
5	添削・面接指導	添削・面接指導	添削・面接指導	添削・面接指導	添削・面接指導
6	添削・面接指導	添削・面接指導	添削・面接指導	添削・面接指導	添削・面接指導
7					
放課後					

表 57：事例E複数校指導担当教員の時間割（例）

#### (4) 遠隔授業実施の概要

##### <遠隔授業の実施体制>

- ◆ 一般的な学校とは別の配信センターから授業を配信する。
- ◆ 担当している3校のうち、1校はプログラミング授業のみ（10時間分）を担当する。  
（プログラミング授業のみを担当する兼務校は、プログラミング以外は兼務校の免許保有教員が担当する。プログラミング授業においてはより高度な専門性が求められるため、当複数校指導担当教員が担当している。また、当該兼務校においては、プログラミング授業の補助教員として、ICT支援員が配置されている。）
- ◆ 受信側の生徒数10～20人（学校によって異なる）、遠隔授業補助教員1人（教科「情報」の免許非保有）で授業を実施している。

##### <遠隔授業の実施時間数と使い分け>

- ◆ 基本的には全て遠隔授業であるが、受信側・配信側双方の都合がよければ、最初と最後の授業を実地で行うことがある。
  - 初回：「年間計画の確認と評価についての説明」「授業の進め方の確認」等の導入の説明と、教員の人柄を分かってもらうため。
  - 最終回：全体のリフレクションと授業の区切りをつけるため。

#### (5) 遠隔授業実施上の課題と対応策

課題	対応策
<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の学習状況がカメラ越しでは測りづらい。</li><li>・実習の際に生徒の画面状況や手元が見えず、指導しにくい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎授業の終わりのタイミングで、振り返りシートに分かったことや分からなかったことを記入してもらうことで、生徒の学習状況や興味の方性を確認。</li><li>・全ての生徒に対してフィードバックコメントをすることで授業の補足説明を実施している。</li><li>・生徒の画面を遠隔で確認することが可能なツールの活用を検討中。</li></ul>

表 58：事例E遠隔授業実施上の課題と対応策

## (6) 生徒評価における工夫点

授業中の実習、テストに加えて、毎授業終わりのタイミングで生徒に記入してもらう振り返りシート(図30)を活用している。

### 第9回 11月20日

**学習の目標**

1. 情報に關して身の回りにある情報の具体例に對して、対処の方法について考える。
2. 個人を認証する技術について理解し、個人の権利を守る心構えを持つ。
3. 世の中にある情報格差の存在と、それを情報リテラシーによって解決することを理解する。
4. 情報社会にある情報システムが存在し、その仕組みに關する。

**アイドリング**

みんなの今の気持ちを書き込んでみよう。何を書いても大丈夫。でも、その書き込みの内容に対して、人から何を返されるかは想像してからにしてくださいね。(P.7)

お名前:

お名前:

**授業への質問や感想**

お名前:

**今日のリフレクション**

リフレクションの観点

**理解度、興味の方向性を確認するための観点を提示**

1. 身の回りに關する情報の身の回りについて理解できたか。
2. 個人を認証する技術について理解し、個人の権利を守る心構えを持てたか。
3. 情報格差を情報リテラシーによって解決することの意義を理解できたか。
4. さままね情報システムの利用の仕組みに興味や関心を持てたか。

- ・パスワードが6文字から6文字になるだけで4秒くらい時間がかかるんだとびっくりしました。今回パスワードを変更する機会があったらパスワードが覚えられないようにして、自分のパスワードを守ることを意識したい。
- ・最近、家のパソコンに配達業者が来た時、郵便(？)が届いていたので少し煩いですが、通帳(?)が状況向上を飛んでいるのは面白いです。私もぜひ使いたいです。
- ・自分もフィッシング詐欺などにあてられてしまった経験があります。自分もフィッシング詐欺にあってしまったら、自分も被害者になってしまいます。自分もフィッシング詐欺にあってしまったら、自分も被害者になってしまいます。
- ・今まで何も考えずにバックアップなどをしていたけど、今日の話を聞いてからは、バックアップは定期的にバックアップを取らなければいけません。バックアップを取らないと、バックアップが壊れたらバックアップも壊れてしまいます。

**教員からのコメント返し**

お名前:

コメントの購入

「」さんへ  
パスワードに数字や記号を加えてみようとする考えはいいですね。授業でも実践するように、とにかくパスワードを破られるまで時間をとるべきはいい(現状では、パスワードは時間をおかかればついでに破られてしまいます。だから、文字列の長さを長くするのと同様に、可能性のある文字種を増やすことも十分な対策は取込めます。くれぐれ忘れずにくださいね。(P.6)

「」さんへ  
パスワードに数字や記号を加えてみようとする考えはいいですね。授業でも実践するように、とにかくパスワードを破られるまで時間をとるべきはいい(現状では、パスワードは時間をおかかればついでに破られてしまいます。だから、文字列の長さを長くするのと同様に、可能性のある文字種を増やすことも十分な対策は取込めます。くれぐれ忘れずにくださいね。(P.6)

「」さんへ  
パスワードに数字や記号を加えてみようとする考えはいいですね。授業でも実践するように、とにかくパスワードを破られるまで時間をとるべきはいい(現状では、パスワードは時間をおかかればついでに破られてしまいます。だから、文字列の長さを長くするのと同様に、可能性のある文字種を増やすことも十分な対策は取込めます。くれぐれ忘れずにくださいね。(P.6)

「」さんへ  
パスワードに数字や記号を加えてみようとする考えはいいですね。授業でも実践するように、とにかくパスワードを破られるまで時間をとるべきはいい(現状では、パスワードは時間をおかかればついでに破られてしまいます。だから、文字列の長さを長くするのと同様に、可能性のある文字種を増やすことも十分な対策は取込めます。くれぐれ忘れずにくださいね。(P.6)

図 30 : 振り返りシート例

### (7) 授業改善に向けた取組み

上記の毎授業の終わりのタイミングで生徒に記入してもらう振り返りシート（図30）により、分かりにくかった点や生徒の興味の方向性を確認し、次回の授業内容やコミュニケーションの仕方に反映する。

### (8) 遠隔授業に対する生徒の声

複数校指導担当教員によるプログラミング（Python）の遠隔授業を実施した学校の生徒に対してアンケートを実施したところ、回答した生徒全員（19人）が楽しいと感じ、プログラミングに対して興味を持ち、今後も学んでみたいと感じており、生徒の学習意欲向上につながっている。

#### ■質問1 「あなたはプログラミングを学習してみてどうでしたか？」

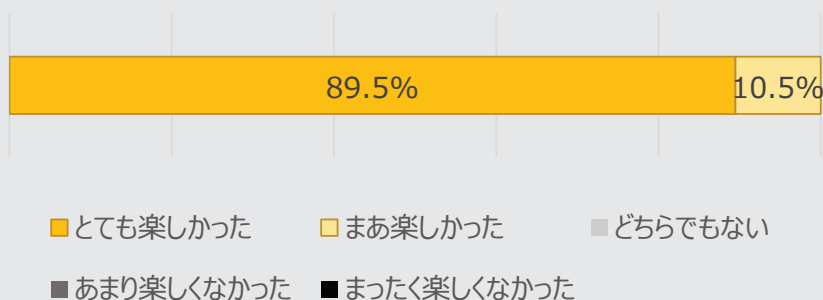


図 31：事例E遠隔授業アンケート結果「プログラミングの楽しさ」

#### ■質問2 「プログラミングとはどのようなものかわかりましたか？」

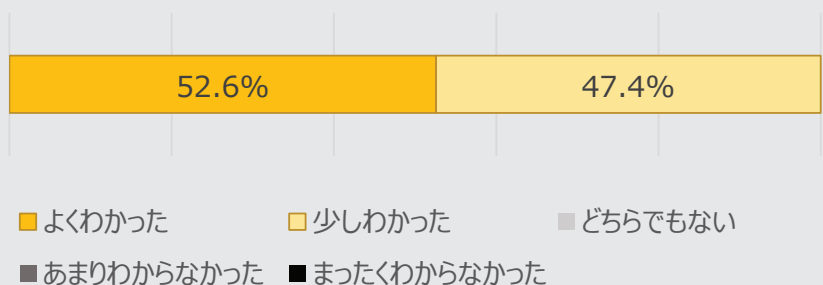


図 32：事例E遠隔授業アンケート結果「プログラミングの理解度」

#### ■質問3 「プログラミングの難易度はどうでしたか？」

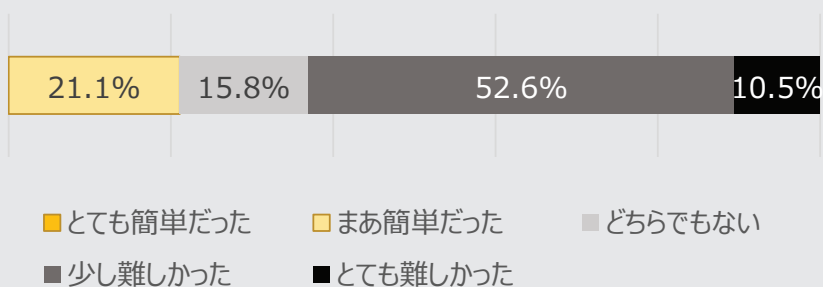


図 33：事例E遠隔授業アンケート結果「プログラミングの難易度」

■質問4 「プログラミングに興味を持ってましたか？」

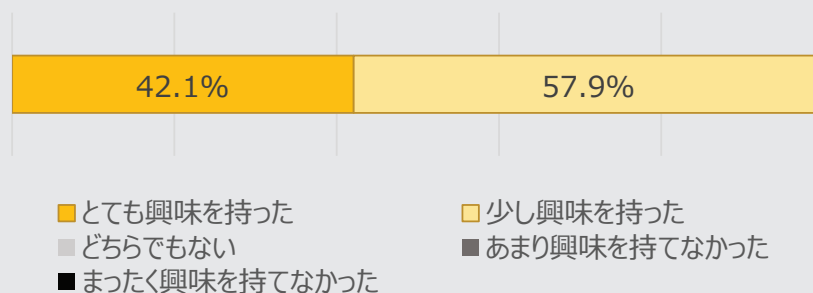


図 34：事例E遠隔授業アンケート結果「プログラミングへの興味」

■質問5 「今後もプログラミングを学んでみたいですか？」

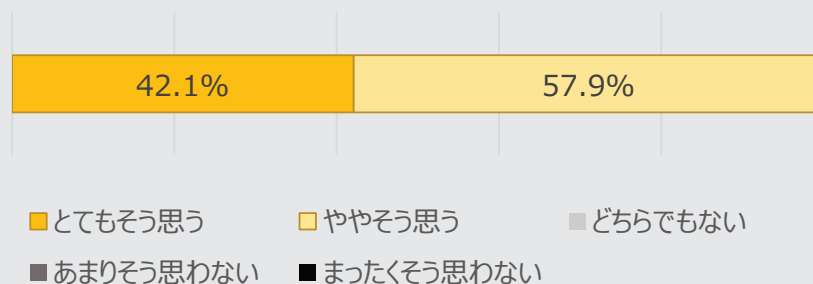


図 35：事例E遠隔授業アンケート結果「プログラミング学習への意欲」

(9) 複数校指導実施上の課題・改善点

- ◆ 遠隔授業において、学校のICT環境に授業が依存する。(パソコンがなくタブレットの場合はプログラミングのタイピングがしづらくなる、等。)
- ◆ 遠隔授業において、声のタイムラグが発生するが、ゆっくり話す、抑揚をつけて話す等話し方を工夫することで、受信側・配信側双方で気にならなくなる。状況に応じた適切な間を取ることができるようになる等、これまでの授業を改善するきっかけになることもある。

